

大問一 問一

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準** 配点…8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

近代的な世界観の中での、諸経験を説明するための

B

知の枠組みが、

C

現代の世界のあり方に対応しようとして、

D

領域が規定されないまま大きく変動すること。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄二行 一行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 近代的な世界観の中での、諸経験を説明するための…2点

- ・「地滑り」するものが「近代」のものであることを説明していないものは要素A加点なし
- ・同意例…近代的な世界観に対応した(していた)

■要素B 知の枠組みが…2点

- ・「地滑り」するものが「知の枠組み」であることを説明していないものは要素B加点なし
- ・解答の主語が「知の枠組み」になっていないものは要素B加点なし

■要素C 現代の世界のあり方に対応しようとして…2点

- ・「地滑り」した後にあるのが、「近代」に対する「現代」であるということの説明していないものは、要素C加点なし
- ・同意例…現代の経験に促されて、現代世界の新しい経験に対応するために

■要素D 領域が規定されないまま大きく変動すること…2点

- ・「領域が規定されなのまま」に1点。※「地滑り」の「地」のニュアンスを出すための「土台から」「根本から」「根本的に」と表現している解答も○。
- ・「大きく変動すること」に1点。「大きく変動しているということ」等も○。※「大きく」がないと×。

大問一 問二

■形式上の不備

- ・文末表現…要素F参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素F不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

「現代思想」とは、その時々の「今」に存在する知のモードにすぎないのに、

B

ある固有の特質をもつものとして扱われること自体が

C

疑わしいことであるが、

D

それが対象と領域を明確にした学問体系をもつ科目として、

E

大学のカリキュラムに組み込まれていると、

F

いっそう疑わしさが目立つということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行 三行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「現代思想」とは、その時々の「今」に存在する知のモードにすぎないのに…2点

・「とりわけ」であるので、傍線部より前の内容から、「そもそも」にあたる、「現代思想」についての基本的なとらえ方の説明をしていないものは、要素A加点数なし

■要素B ある固有の特質をもつものとして扱われること自体が…2点

・要素Aで確認した、「現代思想」がその言葉とは異なった意味合いで扱われるようになったことについての説明がないものは、要素B加点数なし

■要素C 疑わしいことであるが…2点

・要素Aを要素Bのように扱うことを、筆者が「うさん臭い」と考えていることの説明がないものは、要素C加点数なし

■要素D それを対象と領域を明確にした学問体系をもつ科目として…2点

・傍線部について、要素Bのありかたを「大学」にあてはめて説明していないものは、要素D加点数なし

■要素E 大学のカリキュラムに組み込まれていると…2点

・傍線部について、要素Bのありかたを「大学」にあてはめて説明していないものは、要素E加点数なし

■要素F いっそう疑わしさが目立つということ…2点

・傍線部について、要素Cに対応した言い換えをしていないものは、要素F加点なし

\*傍線部の「とりわけ、いかがわしさは際立ちます」という表現であるので、「それ以外（それ以前）」の「いかがわしさ（うさん臭さ）」から入って説明することを問にしたが、そこに触れた答案は少ないと考えられる。

\*「そもそも」の「うさん臭さ」と、「カリキュラム」に組み込まれている「いかがわしさ」を、それぞれ適切に説明しているかどうかをチェックする。

大問一 問三

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

「現代思想」は、一つの学科として対象を規定できない「似非学問」だと否定的に捉える風潮があるが、

B

従来の学問だけでは答えを見出すことができない

C

グローバル化した現代のあり方に対処するためには、

D

曖昧さをもち領域が明確ではない

E

「現代思想」が必要になると考えているから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄四行 二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「現代思想」は、一つの学科として対象を規定できない「似非学問」だと否定的に捉える風潮があるが…2点

・「肩をもちたくなる」のが、「現代思想」であることと、それが一般に白眼視(冷遇)されていることを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 従来の学問だけでは答えを見出すことができない…2点

・「肩をもちたくなる」理由として、従来の学問では対処しきれない状況があることを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C グローバル化した現代のあり方に対処するためには…2点

・「肩をもちたくなる」理由として、グローバル化という状況があることを説明していないものは、要素C加点数なし

※「グローバル化した現代」という表現ではなく、抽象的に言い換えて「さまざまなかたちで人間が「無」に直面するようになった現代」でも良い。

■要素D 曖昧さをもち領域が明確ではない…2点

・要素B・Cに対するための「現代思想」の必要性を説明する上で、その性質を説明していないものは、要素D加点数なし

・同意表現として、「対象を規定できない」等も可。

■要素E 「現代思想」が必要になると考えているから…2点

・要素B・Cに対するには、「現代思想」が必要になる(必要である)ことを説明していないものは、要素D加点数なし

大問一 問四 (文系のみ)

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準** 配点…10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

二十世紀初頭の精神分析的な知の出現は、

B

通常の人格的な意識が主体にとって対象たりえない「無意識」の作用を受けていることの見に結びつき、

C

それまでの、合理主義的・実証主義的な近代的知のありようを

D

根本的に揺るがし、

E

相対化したということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄四行 二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 二十世紀初頭の精神分析的な知の出現は…2点

・傍線部は、その直前にある「精神分析」が出現したことによっているということを説明していないものは、要素A加点数なし

・「二十世紀」ではなく「今世紀」と書いてしまっているものは1点減点。

■要素B 通常の人格的な意識が主体にとって対象たりえない「無意識」の作用を受けていることとの発見に結びつき…2点

・「意識」に対する「無意識」の発見ということを説明していないものは、要素B加点数なし  
※細かいことですが、「結びついていて」の表現のほうが望ましいです。(先に無意識の発見があり、後に精神分析が出現したため。)今回は「無意識の発見」と「精神分析の出現」の順番に関しては不問としてください。

■要素C それまでの、合理主義的・実証主義的な近代的知のありようを…3点

・「意識」や「対象認識」が「近代」の考えであることを説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D 根本的に揺るがし…2点

・要素A・Bが要素Cを「否定」したということとを説明していないものは、要素D加点数なし

■要素E 相対化したということ…1点

・「意識」の「絶対性」を、「無意識」が「相対化」したということとを説明していないものは、要素E加点数なし

大問一 問五 (理系は問四)

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準** 配点…10点

模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

近代の知の枠組みでは

B

「無」として否定的にしか規定できないものが、

C

二十世紀になってから

D

意識とは異なるものとして認識されるようになり、

E

従来の知の枠組みでは捉えきれない、対象の把握を無効にしてしまうような現代の新たな関係に対応しようとする知のあり方。

採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄四行 二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 近代の知の枠組みでは…2点

- ・「現代思想」に対するものとして、「近代の(従来の)知の枠組み」があることを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 「無」として否定的にしか規定できないものが…2点

- ・要素Aにおいては、「無」としてのみ捉えられるものについて説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 二十世紀になってから…2点

- ・「近代」に対する「現代」について触れていないものは、要素C加点数なし
- ・「今世紀」としているものは1点減点

■要素D 意識とは異なるものとして認識されるようになり…2点

- ・「現代」は、要素Bの捉え方が変わったということについて説明していないものは、要素D加点数なし

■要素E 従来の知の枠組みでは捉えきれない、対象の把握を無効にしてしまうような現代の新たな関係に対応しようとする知のあり方…2点

- ・要素Aではない、「現代」の枠組みが「現代思想」であるという説明をしていないものは、要素E加点数なし

\*要素Cが抜けている答案が多いと考えられる。

\* 「近代」のあり方に対して、それとは異なる「現代」のあり方を説明することを問いましたが、その関係をうまく言葉をつなげることができていないものが多いと考えられるので、言葉の不  
足などに注意して、減点する箇所があるかどうかをチェックする。



■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A  
生まれ育った土地とは風俗習慣のかけ離れた世界で生活することにより、心身にそれまでとは異なる刺激が  
C  
与えられ、人間の既成の価値観を変容させるということ。  
B

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「生まれ育った土地とは風俗習慣のかけ離れた世界で生活する」…3点

- ・「生まれ育った土地とは」はなくても可。
- ・「風俗習慣」を単に「環境」や「風土」としている場合は2点。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「心身にそれまでとは異なる刺激が与えられ」…2点

- ・「心身に」はなくても可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「人間の既成の価値観を変容させる」…3点

- ・本文の「日本へ帰った後の生活にも有形無形の影響になって現れている」を利用した答案は2点。
- ・「価値観」は「(ものの)考え方」「ものの見方・捉え方」などでも可。但し「変容」と同等の説明がなければ2点
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点

■要素D 文末表現は「…こと」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。



■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。  
 自分の内部であまりに強い存在感を持つている父を他人が話題にすることに違和感を抱く一方で、自分が父  
 の付属物のように扱われることに対して屈辱感を抱いたから。 B C D

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「自分の内部であまりに強い存在感を持つている父」…2点

- ・本文の「あまり強く父を自分の内に保っている」に基づく説明。本文の記述をほぼそのまま答案に引いていても可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「他人が話題にすることに違和感を抱く」…2点

- ・本文の「それ（＝父のこと）に触れられることがくすぐったく、避けたい気持ち」に基づく説明。本文の記述をほぼそのまま答案に引いてもよいが、「触れられたくない」・「避けたい」と「くすぐったい」のいずれかを欠いている場合は1点とする。
- ・「どこか恥ずかしく」など、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「自分が父の付属物のように扱われること」…2点

- ・本文の「父の名がいつも私の名の上に冠らされている」、また「自分の能力について、自分以外の冠を冠せられることは、たとえ親であっても」という記述に基づく説明。本文の記述は明らかに比喻表現なので、そのまま答案に持ち込んでいる場合は1点とする。
- ・「父とは違う一個の人格として自分を見てもらえない」など、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「屈辱感を抱いた」…2点

- ・本文の「自尊心を傷つける結果になった」と「恥であった」という記述に基づく説明。「自尊心（プライド）が傷つけられた」でも可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E 文末表現は「…から」などで「など理由説明の形式になっていれればよい。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 筆者の社会的な認知は、筆者自身の小説家としての実力に由来するのではなく、  
B 筆者の父親が上田万年とい  
C

う高名な国語学者であることに由来するのだということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「筆者の社会的な認知は」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点

■要素B 「筆者自身の小説家としての実力に由来するのではなく」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「筆者の父親が上田万年という高名な国語学者であることに由来する」…3点

- ・「上田万年という」はなくても可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 文末は「…意味…こと」という形が原則。答案が「どのような意味か」という設問の問い方に  
対応していると判断できれば可。不適切な形と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点 1 2点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A  
 相応の社会的地位と名声のある優れた父親を持った子が、父親の偉大さゆえのコンプレックスにさいなまれながら、二代目として何が何でも父親を乗り越えようとして、  
 C  
 D  
 過剰な努力を自分自身に強いるような心情。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「相応の社会的地位と名声のある優れた父親を持った子」…4点

- ・本文の「優れた父親」「父親が社会的に相応の位置を持つ」「世間的に名のある父」という記述をまとめた説明。父親の「社会的地位(位置)」と「名声」の二点に言及できれば、ほぼ同内容として加点してよい。

- ・「社会的地位(位置)」と「名声」のいずれか一方を欠いている場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素B 「父親の偉大さゆえのコンプレックスにさいなまれながら」…3点

- ・本文の「優れた父親を持った息子はそのコンプレックスに押しつけられて」に基づく説明。父親に対して抱くコンプレックスに言及できていれば、ほぼ同内容として加点してよい。
- ・「自分をあくまで父の子をしてしか見てくれない世間の目に抗い、」なども同内容なので○。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「二代目として何が何でも父親を乗り越えようとして」…3点

- ・本文の「二代目敵性格」「仕事の上で父を仮想敵に見る意識」という記述から導いた説明。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・「父に負けない能力を身につけよう」となども同内容なので○。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「過剰な努力を自分自身に強いる」…2点

- ・本文の「父を仮想敵に見る」「肩肘を張る意地っ張り」といった記述から導いた説明。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末は「…心情」という形が原則。答案が「どのような心情か」という設問の問い方に対応していると判断できれば可。不適切な形と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点 4点  
1点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 関わりのある学校の震災からの復興のために、また困窮する友人や弟子を救うために、ためらうことなく私財を差し出し、そのことを家族にも知らせようとしな<sup>B</sup>い筆者の父の振る舞いに示される、嫌みがなく洗練さ<sup>C</sup>れた、他人を包み込むような度量の大きさという<sup>D</sup>こと。  
F E

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「関わりのある学校の震災からの復興のため」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「困窮する友人や弟子を救うため」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「ためらうことなく私財を差し出し」…2点

- ・「ためらうことなく」はなくても可。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「そのことを家族にも知らせようとしな<sup>B</sup>い」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「嫌みがなく洗練された」…2点

- ・傍線部の「砕けた洒脱さ」に対応する説明で、本文の「意気だとか気がきいている」に則っている。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば、広く許容して加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「他人を包み込むような度量の大きさ」…3点

- ・傍線部の「一種の親分肌」に対応する説明。
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば、広く許容して加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 文末表現は「…こと」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

三 古文 50点

▲ 内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一 言葉を補いつつ現代語訳せよ。

(1) (10点)

【模範解答】

今まで絶えることのなかった、私とあなたとのお互いのことを気遣う思いの火は、今となってはもう消えてしまったのですね。

〔注〕和歌の解釈なので、丁寧語や尊敬語が加えられてもよい。もちろんなくてもよい。

「私・あなた」はなくても、文意は伝わるので、ここでは不問とする。

A 絶え一ざりし

(今まで) 絶えることのなかった

2点

B 思ひ一も

(私とあなたとの) おたがい (のこと) を気遣う思いの火

4点

C 今一は一絶え一に一けり

今となってはもう消えてしまったのですね

4点

◆ 各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A1 「絶えざりし (今まで途絶えることがなかった)」という表現

2点

B1 「思ひ」と「火」の掛詞

2点

B2 「(私とあなたとの) お互い (のこと) を気遣う思い」という表現

2点

\* 一人称・二人称は記述がなくとも理解されるので、記述されなくとも可。ただし、誤った記述があるものは不可とする。

C1 「今は (今となってはもう)」という表現

2点

C2 「絶えにけり (消えてしまったのですね・絶えてしまったのですね)」という表現

2点

\* 完了の助動詞「に」、詠嘆の助動詞「けり」の記述がないものは不可とする。

(2) (10点)

【模範解答】

西山の奥は里から遠いので、こんなあまりにも奥深い山道には、花見をしようなどとは誰も思わないで、人もやって来なかったのですね。

《注》和歌の解釈なので、丁寧語や尊敬語が加えられてもよい。もちろんなくてもよい。

A 里一遠み

(西山の奥は里から遠いので)

4点

B あまり一奥一なる一山路一に一は

(こんなあまりにも奥深い山道には)

2点

C 「花見一に」と一て一も、人一来一ざり一けり

(花見をしようなどとは誰も思わないで、人もやって来なかったのですね)

4点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A-1 「里一遠み」の訳

2点

「里から遠いので」「里は遠いので」「里が遠いので」等。

A-2 「西山の奥は」「ここは」「この地は」という主体

2点

B-1 「あまりにも奥深い山道には」という表現

2点

C-1 『花見一に』と一て一も」という表現

2点

「花見をしようなどとは誰も思わないで」「花見をしようなどと思って」「花見にゆこうなどと思って」等。

\*「と一て一も」の解釈。

C-2 「人一来一ざり一けり」という表現

2点

「人もやって来なかったのですね」「誰もやって来なかったのですね」等。

\*詠嘆(気づき)の助動詞「けり」の記述がないものは不可とする。

(3) (10点)

【模範解答】

宮家でご交際申し上げている方の御もとから手紙が届いたが、私はその返事をお書き申し上げているうちに、広隆寺の鐘の音が聞えてくるので、

- A 「宮一に一語らひ一聞こゆる一人」  
(私が宮家でご交際申し上げている方) 4点
- B 「…人一の一御許一より一文一ある、」  
(…方の御もとから手紙が届いたが、) 2点
- C 「返事一聞こゆる一ほど一に」  
(私とその返事をお書き申し上げているうちに) 2点
- D 「鐘の音一の一聞こゆれ一ば」  
(広隆寺の入相の) 鐘の音が聞えてくるので) 2点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・Dに関して部分採点】

- A-1 「宮一に」が「宮家で」「祐子内親王家で」等の意味である 1点
- A-2 「語らひ」が「親しく交際する」「親しくする」等の意味である 2点
- A-3 「聞こゆる」が謙譲語の補助動詞である 1点

- B-1 「…人一の一御許一より一文一ある（…方の御もとから手紙が届く）」 1点
- B-2 「…が、その…」等の連体修飾節と被修飾語の関係を表す表現 1点

- C-1 「返事一聞こゆる」の解釈  
「私が返事をお書き申し上げている」「私が返事を書いて差し上げる」「私が返事をお書きする」 1点
- C-2 「ほど一に」の解釈  
「…うちに」「…時に」等と表現している 1点
- D-1 「鐘の音一の一聞こゆれ一ば」の解釈  
「(広隆寺の入相の) 鐘の音が聞えてくるので」「(日没を告げる) 鐘の音が聞えるので」等。 2点

\* 「広隆寺の」「入相の」の記述はなくても可とする。

問二 傍線部(4)の「三人」はどのような心情が共通していたのか、説明せよ。(10点)

【模範解答】

涙で袖が濡れるほど宮仕えはつらく、どんなに努力しても何のかいもないが、その暇を見はからって、あなたたちと会えたからこの宮仕えに耐えられたし、一緒に宮仕えをしたことが恋しく思い出されるといふ心情。

- A 涙で袖が濡れるほど宮仕えはつらい 3点  
B どんなに努力しても何のかいもない 2点  
C 暇を見はからって、あなたたちと会えたからこの宮仕えに耐えられた 2点  
D 一緒に宮仕えをしたことが恋しく思い出される 3点  
E (という) 心情。(これがない場合は減点) 減点1点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・Dに関しての部分採点と減点要素E】

- A 「袖濡るる」「潮に濡るる」の解釈 3点  
「涙で袖が濡れるほど宮仕えはつらい」「宮仕えは涙で袖が濡れるほどつらい」等。
- B 「かひ」は「貝」と「効」の掛詞 2点  
「どんなに努力しても何のかいもない」「宮仕えは苦勞のかいもなくて」「宮仕えは何のかいもない」等。
- C 「みるめ生ふる浦」「荒磯の浪間かぞふる」の解釈 2点  
「暇を見はからって、あなたたちと会えたからこの宮仕えに耐えられた」「あなたたちと会えなかったら宮仕えに耐えられなかった」「あなたたちがいなかったら宮仕えなどできなかつた」等。
- D 「ともにかづきをせしぞ恋しき」の解釈 3点  
「一緒に宮仕えをしたことが恋しく思い出される」「あなたたちと宮仕えをしたあの頃が懐かしい」等。
- E (という) 心情。(この文末表現がないものは減点) 減点1点  
(という) 心情。「(という) 気持ち。」等。



問三 傍線部(5)はどのようなことを言っているか、説明せよ。(10点)

【模範解答】

気が合って、さまざまなお互いに語り合っていた人と、再び宮家で落ち合い、昔のようにその人と過ごしていると思っただけれど、目覚めてそれが夢だとわかってしまつと、寝ざめの床も浮くほどに作者は号泣していたということ。

- A 気が合って、さまざまなお互いに語り合っていた人(源資通) 2点
- B その人のことを恋しく思いながら寝入ってしまった 1点
- C 再びその人と宮家で落ち合い、昔のようにその人と過ごしていると夢にみた 2点
- D 目覚めてそれが夢だとわかった 1点
- E 寝ざめの床も浮くほどに作者は号泣していた 4点
- F (という)こと。(この文末表現がないものは減点) 減点1点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・D・Eに関して部分採点と減点要素F】

A 「同じ心にかやうに言ひかはし、世の中のうきもつらきもかきもかたみに言ひ語らふ人」の解釈 2点  
「気が合って、さまざまなお互いに語り合っていた人」「気が合い、お互いに語り合っていた源資通」「同じ感性をもち、色々と語り合っていた人」等。

B 「恋しく思ひつつ寝入りにけり」の解釈 1点  
「その人のことを恋しく思いながら寝入ってしまった」「その人のことを思いながら寝入ってしまった」等。

C 「宮に参りあひて、うつつにありしやうにてありと見て」の解釈 2点  
「再びその人と宮家で落ち合い、昔のようにその人と過ごしていると夢にみた」「その人と宮家での出会い、現実に過ごしているように夢にみた」等。

D 「うちおどろきたれば夢なりけり」の解釈 1点  
「目覚めてそれが夢だとわかった」等。

E 「寢覚の床の浮くばかり」の解釈 4点  
「寝ざめの床も浮くほどに作者は号泣していた」「作者は寝ながら激しく泣いていた」「作者は激しく泣きながら寝ていた」等。

\* 「作者は泣きながら寝ていた」という要素があれば可。

F (という)こと。(この文末表現がないものは減点)

減点1点

以上